

老後資金、4割以上は公的年金・2割は預貯金やタンス預金のみ！ 「年金は65歳から」を3割は知らない！ — 一年金制度に関するアンケート調査 —

2017年9月、厚生年金の保険料が引き上げられ、2004年から続いていた段階的な引き上げが終了しました。少子高齢化による働く世代の減少や長生きのリスクの増加に伴い、社会保障制度に加え自助努力による備えの必要性が増してきています。

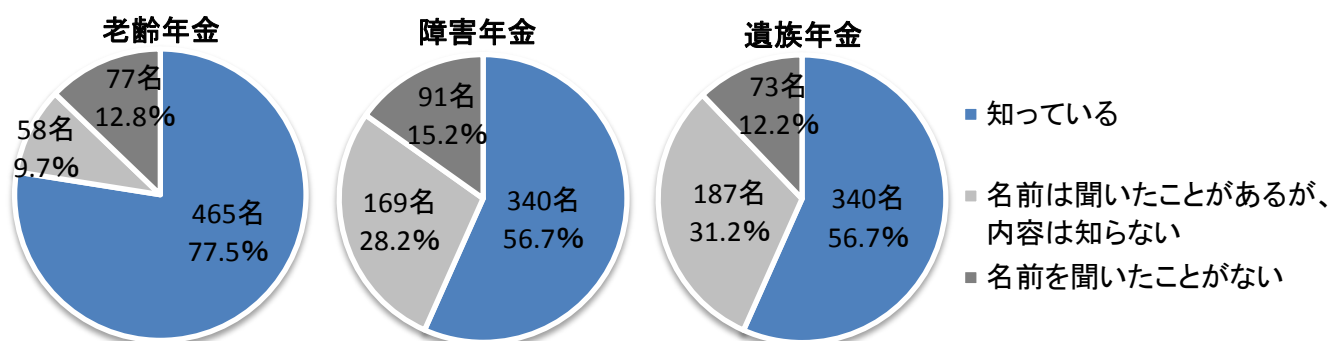
そこで『保険クリニック』は、社会保険のひとつである「年金保険」について、20歳から60歳の男女600名にアンケート調査を実施し、「老齢年金」「障害年金」「遺族年金」のそれぞれの内容の認知度等を測りました。

■ 調査結果抜粋

- 1) 障害年金・遺族年金よりも老齢年金の認知度が高い傾向にありますが、「老齢年金は65歳から支給される」という事実が約30%の人に知られていないという事が分かりました。(Q1)
- 2) 毎月自分が納めている年金保険料を知っているのは半数に満たず、国民年金加入者と厚生・共済年金加入者では約10%の開きがありました。(Q2)
- 3) 毎年届くねんきん定期便は、をチェックしている人は約60%でした。(Q3)
- 4) 将来の自分のおおよその支給額を把握しているのは、ねんきん定期便をチェックしている人では約80%ですが、ねんきん定期便をチェックしていない人では全く反対の結果となりました。(Q4)
- 5) 90%以上が老齢年金の金額は不十分と感じており、プラス100万円を望む声が多く挙がりました。(Q5)
- 6) 約40%にあたる251名が、老齢年金以外での老後資金の対策をしていませんでした。また、対策をしている人の中でも、約20%が預貯金やタンス預金のみという結果でした。(Q6)

■ 調査結果詳細

Q1. 老齢年金、障害年金、遺族年金について知っているものはどれですか。(複数回答)



私達は、「国民年金保険」や「厚生年金保険」等として毎月保険料を納めています。その中には“年金”として一般にイメージされる「老齢年金」だけでなく、「障害年金」や「遺族年金」のための保険料も含まれます。

下記の様な場合に該当すると「基礎年金」や「厚生年金」としてそれぞれ支給されるにもかかわらず、障害年金や遺族年金は約半数の人にしか認知されていないようです。

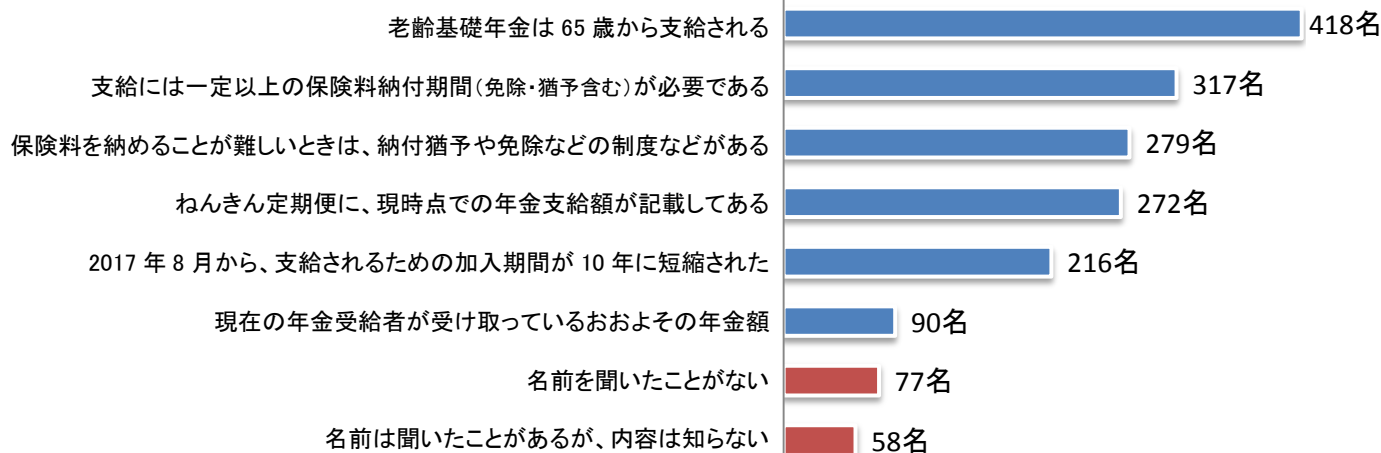


【本件に関するお問い合わせ】

株式会社アイリックコーポレーション 広報宣伝部 山本

TEL: 03-5840-9561 E-mail: branding@irrc.co.jp

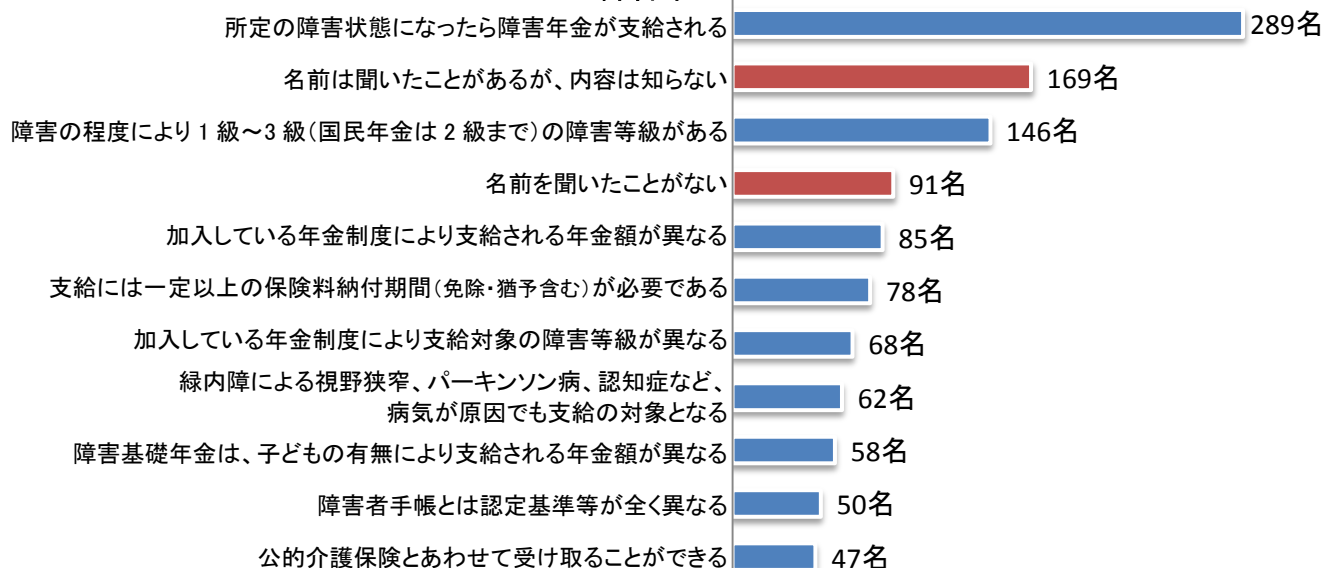
老齢年金



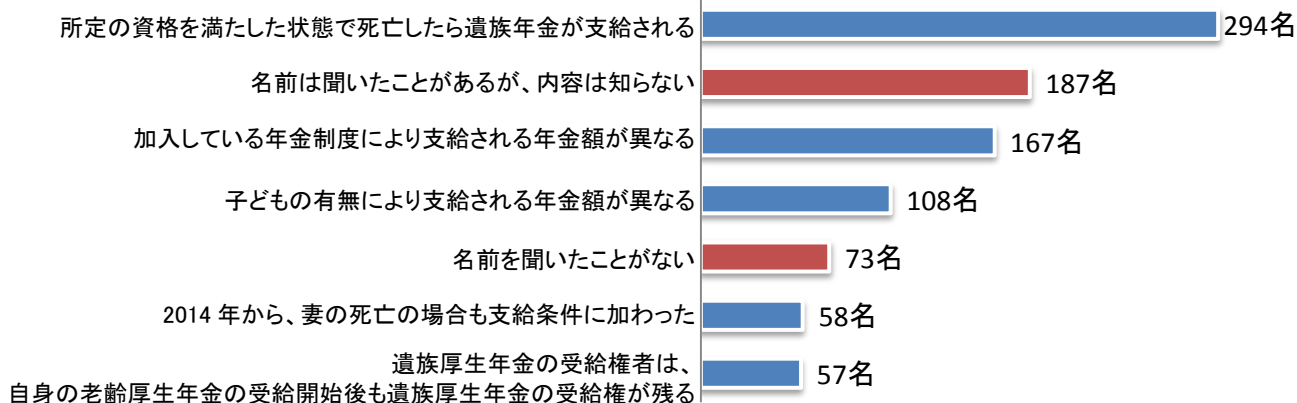
「年金は 65 歳から」を 3 割は知らない！

最も多い回答の「老齢基礎年金は 65 歳から支給される」でも、418 名(69.7%)にとどまりました。老齢年金の名前や内容を知らないと回答したのは、22.5%にあたる 135 名でした。

障害年金



遺族年金



【本件に関するお問い合わせ】

株式会社アイリックコーポレーション 広報宣伝部 山本
 TEL: 03-5840-9561 E-mail: branding@irrc.co.jp

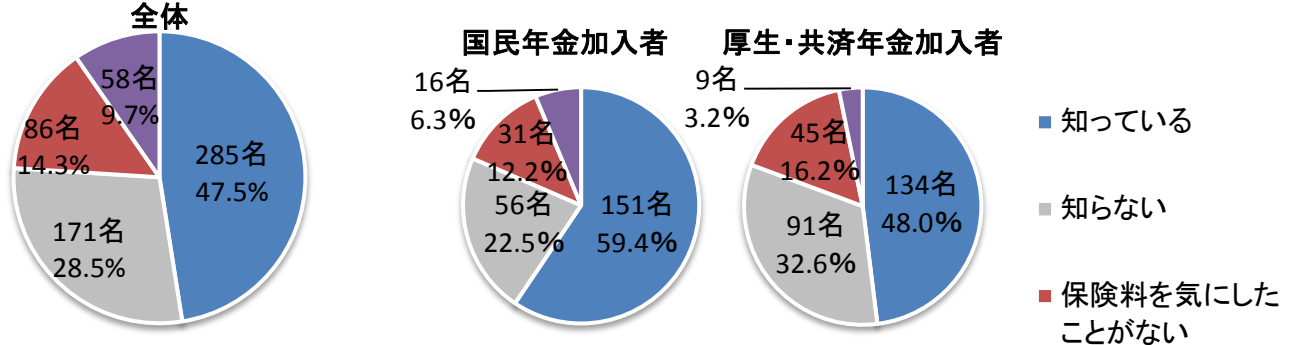
障害年金・遺族年金の認知率はともに 56.7% !

障害年金について最も知られていたのは「所定の障害状態になったら障害年金が支給される」で、回答したのは 289 名(48.2%)でした。

遺族年金について最も知られていたのは「所定の資格を満たした状態で死亡したら遺族年金が支払われる」で、回答したのは 294 名(49.0%)でした。

障害年金・遺族年金ともに 2 位は「名前は聞いたことがあるが、内容は知らない」となり、「名前を聞いたことがない」とあわせて 43.3%にあたる 260 名が名前や内容を知らないことが分かりました。

Q2. 毎月、年金保険料を自分がいくら納めているか知っていますか。



給与天引きだと、半数以上が保険料を知らない

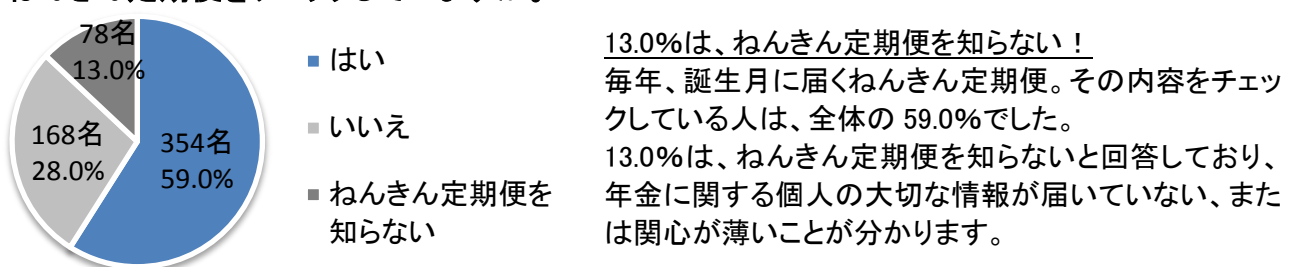
毎月納めている年金保険料の金額を知っているかを聞いてみると、285 名(47.5%)が知っていると回答しました。国民年金に加入している人の 60%近くが保険料を把握しているのに対し、厚生年金・共済年金に加入している人では、「知らない」「保険料を気にしたことがない」が「知っている」を上回りました。

自分で払う国民年金と違って、給与天引きの厚生年金はその金額があまり認知されていません。

平成 29 年度の国民年金保険料は、1 ヶ月あたり 16,490 円です。

厚生年金保険料は、毎月の給与(標準報酬月額)と賞与(標準賞与額)の 18.3%であり、その半額が毎月給与から控除されています。

Q3. ねんきん定期便をチェックしていますか。

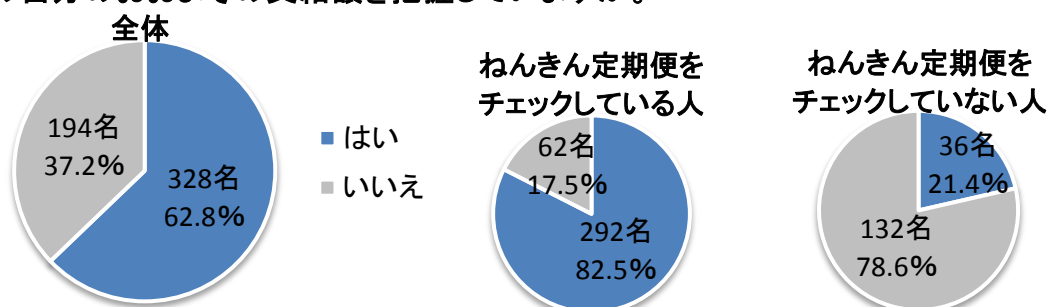


13.0%は、ねんきん定期便を知らない！

毎年、誕生月に届くねんきん定期便。その内容をチェックしている人は、全体の 59.0%でした。

13.0%は、ねんきん定期便を知らないと回答しており、年金に関する個人の大切な情報が届いていない、または関心が薄いことが分かります。

Q4. 将来の自分のおおよその支給額を把握していますか。



IRC 【本件に関するお問い合わせ】
 株式会社アイリックコーポレーション 広報宣伝部 山本
 TEL: 03-5840-9561 E-mail: branding@irrc.co.jp

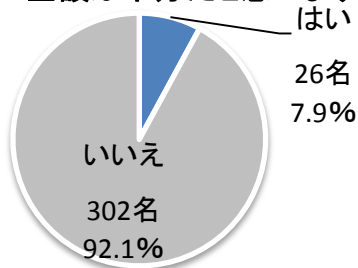
ねんきん定期便をチェックしているかが分かれ目！？

前問でねんきん定期便の事を知っている 522 名に、将来自分が受け取れるおおよその年金額を把握しているかを聞いてみました。全体では 328 名(62.8%)が把握していると回答しました。

ねんきん定期便をチェックしている人の 82.5%が把握しているのに対し、チェックしていない人は 21.4%にとどまり、全く反対の結果となりました。

ねんきん定期便以外にも、ねんきんネットに登録することで、これまでの年金記録や将来の年金見込額などを確認することができます。

Q5. 金額は十分だと思いますか。十分でない場合、あとどれくらいのプラスを望みますか。



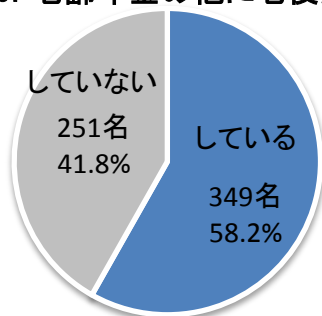
老齢年金は 9 割が「不十分」

前問で、金額を把握していると回答した 302 名に、その金額が十分かどうかを聞いてみました。

90%以上が十分でないと回答しました。

プラスで希望する金額は 100 万円で、最も多い 64 名が回答しました。

Q6. 老齢年金の他に老後資金の対策をしていますか。



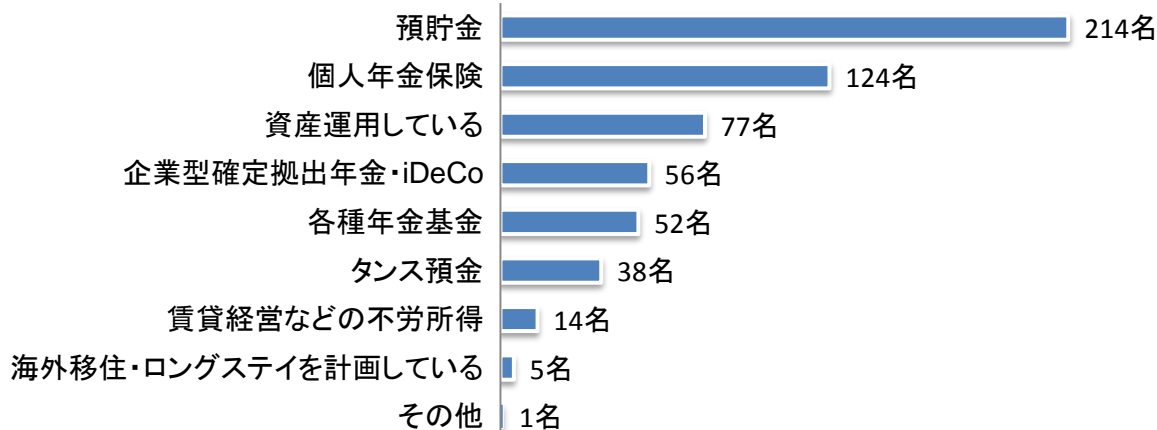
4 割以上は公的年金のみ！

20 歳から 60 歳の男女 600 名全員に、老齢年金の他に老後資金の対策について聞いてみました。

全体の 41.8%にあたる 251 名、また前問で

老齢年金が十分でないと感じている人 302 名の中でも、23.2%あたる 70 名が老齢年金以外に「何もしていない」と回答しました。

また、何か対策をしている人でも、預貯金やタンス預金のみという人は 129 名で、全体の 5 人に 1 人という事が分かりました。



■調査方法

サンプル数 : 男女 600 名(男性 300 名、女性 300 名)

年齢 : 20 歳～60 歳

調査方法 : Web アンケート

調査期間 : 2017 年 10 月 2 日～10 月 4 日

※本リリースの分析は、弊社で行ったアンケート結果に基づいたものです。

※本リリースの調査結果や分析をご利用いただく際は、『保険クリニック調べ』と明記ください。



【本件に関するお問い合わせ】

株式会社アイリックコーポレーション 広報宣伝部 山本

TEL: 03-5840-9561 E-mail: branding@irrc.co.jp